



私　の　お　念　仏

宮　嶋　千　秋



かづに歩きだしたそうです。

その旅人にまた一人の先輩の旅人がつれそつてい

て、歩きだした旅人に  
「この山道はとてもけわしい。いろいろな危険がある。いまの私たちにとても越せるような道ではない  
から」

とさかんにさとしてくれるのですが、旅人は

それも聞きいれずにあり切つて道を急ぎました。

しかし旅人は、おそらくのちを失うほどな危険

にあつたのだと思います、やがてまた海辺にまいも

どつてきて、今度はていちよろに船頭にむかつて

「おねがいする」というと、船頭は「あなたがたが

あります。いつか帰つてこられるのを私は待つていたの

です」といつたというお話をお聴聞したことがあります。

そういうものがこの世にどうしてできたのか私は

知りません。おそらく私は阿弥陀さまのお力、おは

からいではないのかといふ思いがいたします。

(その水の不自由なところで苦しんでいらつしや

る人々が沢山いらつしやるというのに、充分すぎる

ほど使わせていただき、もつたいないことだと思つ

ております)

水というものがこの世にどうしてできたのか私は  
知りません。おそらく私は阿弥陀さまのお力、おは  
からいではないのかといふ思いがいたします。  
(その水の不自由なところで苦しんでいらつしや  
る人々が沢山いらつしやるというのに、充分すぎる  
ほど使わせていただき、もつたいないことだと思つ  
ております)

水の流れはこの人生によく似かよつていて、昔か  
らいわれてきました。

山の奥で一滴の水が生れ、二滴三滴と友をつくり  
小さい小川の流れから、岩にぶつかりどろをくぐり  
だんだんと急なたくましい流れとなり、早い流れとな  
り、さらに大きな川の流れとなつて、われを忘れ  
たように一心に海の方にむかつて流れます。だんだ  
ん海の近くになると一段と大きな川になり、流れも  
ゆるやかになつて、人生での熟年を思わせるような  
流れとなります。人だけの船を浮べるような川とな  
り、やがて海に、大海に流れ入るのです。

・また私は海ということについていつも次のことを  
思い出させていただきます。

いつかある旅人が、山を越え谷をわたり、長い間  
の旅で疲れきつて最後のけわしい山道にさしかかつ  
たときでした。その山道のすぐそばには海があり船があり船頭が  
いて、「船におのりなさい。船で行きなさい」とすすめ  
ましたが、旅人は「いえここまで一人で来たんです  
から、この山道くらい自分で越えます」といつて聞

天「おじいさん、なんと言われたか、今一度言うてくれんかな  
あ」

源「オラア人さんにカンニンしてあげたことはないだいなア。オ  
ラの方が悪いケンさんにはカンニンしてもつてばかりいるがや  
この源左さんの答えにさすがの西田天香さんも感心されたとい  
います。

かわらせてくださるのだよということをお

示しくださつて、いるよう思います。

大切な人生に大きく目をひらかせて、いただ

きたいものです。

源「源左さんは十九歳の時には器から表形状を受け、三十八歳と四  
十二歳ときらに大正六年七十六歳のとき、重ねて県から表形さ  
れおり、また精質賞を二回受けております。さらにご本山から  
も二回にわたって六字尊号を授与されました。人々がお祝いのあ  
いさつをする

ときつといつか帰つてこられるのを私は待つていたの

です」といつたというお話をお聴聞したことがあります。

そういうお正信偈さまにも

「龍樹大士はおしえます／陸路のあゆみかたけれ  
ど／船路の旅の安きかな／弥陀の誓いに帰しぬれば、  
不退の位自然なり／たゞよくつねにみ名となえ／  
ふかきめぐみにこたえかし」とあるのはこのこと  
をお教えくださつたことだといだゞかせてもらい  
ます。

源「源左はのう、行き届かんで、まつとしつかりせえよとのど

お習いの海にあるわれと、開きしより

しづみながらも、心やすけし

人さんにカンニンして

修左さんへ

月の源正寺

ます。

源「源左はのう、行き届かんで、まつとしつかりせえよとのど

お習いの海にあるわれと、開きしより

しづみながらも、心やすけし

惣卒中の予防としてのんでもみては

けい卯一個、白味だけ。

①「ふき」の葉のしばりじるを小さじ三杯。(つわよきはだめ)

②(3)(2)「さらに二時間コトコトと、合計さつと三時間。

③おろしきわに香りつけにちよつと「しょう油」をさす。

④(1)堀りたてのだけのことを皮をむき適量な大きさに切る。

⑤たっぷりな水でコトコトなく、一時間程のとき吸物あじ程度

の「しょう油」味をさす。

天「おじいさん、聞けばあんたは速いところからおいでにな  
ったのに間に合わなんだぞうて思かつたなあ。歩いてきたそう  
ります。有志の人から源左さんへもその案内があつたので随時  
に出かけました。(山根から源左までは十八里あります)が途

中用事のため船頭がすんでから会場へ着きました。

天香さんも大変気の毒がつて宿でおあいになつてくださいま  
した。

天「おじいさん、聞けばあんたは速いところからおいでにな  
ったのに間に合わんだぞうて思かつたなあ。歩いてきたそう  
ります。有志の人から源左さんへもその案内があつたので随時  
に出かけました。(山根から源左までは十八里あります)が途

中用事のため船頭がすんでから会場へ着きました。

天「おじいさん、聞けばあんたは速いところからおいでにな  
ったのに間に合わんだぞうて